

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医療的ケアⅣ Medical care Ⅳ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
2年次前期までの必修科目の修得				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特記なし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新井文子／森千佐子／和田晴美	福祉棟2階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
医療的ケアⅠ～Ⅲで学んだ知識と実施手順をもとに、養成課程カリキュラムに規定された回数を演習する。医療的ケアが必要な利用者に、安全で確実なケアが実施できるよう小グループで繰り返し演習をおこない、技術の確認をする。				
授業の目標				
①喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ内）を手順通りに実施できるようにする。 ②吸引を受けている利用者の状態に注意し、異常を早期発見できるようにする。 ③経管栄養（胃ろう・経鼻経管）を手順通りに実施できるようにする。 ④経管栄養を受けている利用者の状態に注意し、異常を早期発見できるようにする。 ⑤医療的ケア実施後の記録と報告を適切に実施できるようにする。 ⑥緊急時の観察と救急蘇生法を実施できるようにする。				
授業の方法				
1Gを4名とした小人数によるシュミレータを用いたグループ演習であり、技術評価表にもとづき進めていく形式である。（グループ名はアルファベット表記にてA～Dとする。）				
学習の成果（学習成果）				
喀痰吸引と経管栄養の技術および緊急時への対応を適切に実施することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、基礎演習1 吸引（口腔・鼻腔・気管：A、B）経管栄養（胃ろう・経鼻経管：C、D）（第1回～15回担当：新井・森・和田）			
第2回目	基礎演習2 吸引（口腔・鼻腔・気管：A、B）経管栄養（胃ろう・経鼻経管：C、D）			
第3回目	基礎演習3 吸引（口腔・鼻腔・気管：C、D）経管栄養（胃ろう・経鼻経管：A、B）			
第4回目	基礎演習4 吸引（口腔・鼻腔・気管：C、D）経管栄養（胃ろう・経鼻経管：A、B）			
第5回目	技術評価1 吸引（A、B）、経管栄養（C、D）1回目			
第6回目	技術評価2 吸引（A、B）、経管栄養（C、D）2回目			

第7回目	技術評価3	吸引（A、B）、経管栄養（C、D）3回目	（レポート1 提出：第8回目）
第8回目	技術評価4	吸引（A、B）、経管栄養（C、D）4回目	
第9回目	技術評価5	吸引（A、B）、経管栄養（C、D）5回目	技術修得の確認
第10回目	技術評価6	吸引（C、D）、経管栄養（A、B）6回目	
第11回目	技術評価7	吸引（C、D）、経管栄養（A、B）7回目	
第12回目	技術評価8	吸引（C、D）、経管栄養（A、B）8回目	（レポート2 提出：第13回目）
第13回目	技術評価9	吸引（C、D）、経管栄養（A、B）9回目	
第14回目	技術評価10	吸引（C、D）、経管栄養（A、B）10回目	技術修得の確認
第15回目	救急蘇生法		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	20%	既習学習を活かし、積極的に参加している。自主的にメモをしている。テキストや資料、技術評価表を活用している。
	レポート	20%	1・2：「技術評価表」にもとづいた自己評価 S：できる・できないを明確にし、できるための対策を立てている。
	調査報告書		
	小テスト		
	試験	60%	技術修得の確認評価は「技術評価表」にもとづき、各演習の5回目におこなう。 S：手順通りに実施できる。
	発表内容（態度含む）		
	その他		
教科書と参考図書			
新・介護福祉士養成講座＜別巻＞ 「医療的ケア」 中央法規出版（医療的ケアⅠ～Ⅲと同じ）			
履修上の留意点・ルール			
演習回数は決められているため、欠席することのないよう体調管理に努めること。演習時は身だしなみを整えること。			